

# 社会新報

社会民主党全国連合機関誌宣伝局

〒100-8909 東京都千代田区永田町1-8-1

週刊(水曜日発行) 定価180円 1ヶ月700円 送料160円

号外 三春版 2009.10.11

9月定例会(9月04日)一般質問、佐藤弘議員は「新型インフルエンザについて」・「小中学校の学力について」質問に立ちました。

10月4日社会新報号外で「新型インフルエンザについて」を掲載致しましたので、今回は「小中学校の学力について」の全内容を掲載しました。

## 「小中学校の学力について」

### 佐藤 弘議員

第一に、全国学力調査の結果が発表されました。全国での順位が問題でなく、子供たちに対する教育がどうだったのか、三春町のそれぞれの小中学校の学力テストの結果に対して、教育委員会として、教育現場をどのように考えているのかお尋ねをいたします。

次に、小学校より中学校の方が、子供たちの学力に大きな差がつくようでありませんが、その解消方法はどう取られてきたのか。

今後の対策も合わせてお尋ねいたします。

### 橋本教育長

第一の質問にお答えいたします。文部科学省の学力調査は4月に小学6年生と中学3年生に実施されまして、8月28日にマスコミ報道でご存知の通り、全国学力学習状況調査の結果が発表されました。三春町の状況は、これから詳しく結果を分析して、昨年度と同じように、広報みはるでお知らせしたいと考えております。今のところ、判っておる分析では、簡単に正答率で比較しますと、小学6年生は昨年よりはやや伸びておりますが、全国や県平均とほぼ同じ値と言えるものでした。中学3年生では、

国語は新聞で発表された全国1位の県の値とほぼ同じであり、数学はさらにそれより良い値を示しております。この結果は、各学校で学力向上を教育の中心に据えて、昨年度のテスト結果などを分析し、授業の工夫改善と授業研究会などを通して、学校の教職員挙げて指導力向上の取り組みの結果が現れたものであると思っております。また、基礎・基本を確実に定着できるよう、繰り返しの指導や、授業以外での一人一人の個に応じた指導、家庭学習の習慣を図る取り組みなどが、成果を挙げたものと考えております。学力テストで測れるのは、学力の一部であることを再認識して、テスト結果のみに左右されることなく、知・徳・体のバランスの取れた教育を今後とも推進して参りたいと考えております。

次に、第二の質問にお答えいたします。中学校では、教科がより専門的になります。そうしますと、学習内容も高度になります。単に知識を理解するだけでなく、身につけた知識や技能を活用して課題を解決する学習も多くなって参ります。このようなことから、生徒の学力の差が大きくなるのではないかと、言われることがあります。三春の教育は、一人一人を大切にすることを基本としております。少人数学級のよさを生かし、全員が学習指導要領に定める内容を理解し、確実に身につけられるよう、一人一人の個に応じた支援を行って参っております。今回のテストにおける正答数分布グラフや、平均値からのばらつきを示す標準偏差からも、三春町の中学生においては、学力差が大きいとは言えない結果でございました。一人一人の学びが保証され、学ぶ喜びと楽しさを覚えながら、毎日の学習に取り組める子供を育てたい。これは、三春町の教育の願いです。そのために、各学校では、真剣に努力を重ねて取り組んでおり、子供たちは安定した生活を送っております。今後とも、小人数学級のよさを生かし、基礎・基本がしっかりと身に付くことに重点を置き、チームティーチングや少人数指導、また習熟度別学習などによって、一人一人の個に応じた、興味関心に答え、一人一人の良さを引き出すことに努めて参ります。そして、さらに伸ばせるよう、現在の取り組みを充実・発展させるために、いっそうの工夫改善を図って参りたいと考えておりますので、宜しくご理解いただき

たいと思います。

## 佐藤 弘議員

再質問いたしますけれども、少人数の、少人数学級の良さ、という言葉、ほとんどあの、県などで決められている学級の人数というのは決まっているので、問題なのは、それで良くなる、良くなったという事ではないと思うんですけれどね。その辺が、ちょっと引っかけたんですけれども。少人数、要するにクラス、最初の答弁では少人数の良さっていう、そして最後の方に少人数「学級」の良さ、と、ここに「学級」が入ったものですから、少人数学級、30人学級、そういう少人数の学級っていうのは、県内であれば同じだと、同じであれば同じ結果になる、ということではなくて、やっぱり三春の教育の仕方ではないか、と思うんですよね。そういう意味で、三春の教育の仕方の良さ、っていうのか、そういうものが、私はあるだろうと思うんです。やはり、そのことは今後、中学校なんかは特に統合問題控えますので、私はやっぱりそれにつなげて行くという、従って、具体的に今、教育現場でやられている方法っていいですか、先生たちこういうのを取り組んでいる、こういうのをやっている。その結果、先ほどのお話にあった内容ですよ、というものをですね、きちっと総括をするというか、捉えてですね、やっぱり引継ぎをしていくというか、特に私は、新たなことをやるっていうことでなくても良いと思うんですよね。下手に新たなことをやることによって、現場の先生方が、またこれ対策だ、またこれやれ、今度は新しいのこれやれ、それで疲れてしまうという、新しい取り組みというものは非常に疲れるであろうと思いますので、そういう意味でこの、もう一度少人数の良さなり、今後の提示としてまずは、今現在やられていることをきちっと捉えて、それをやっぱり先生が代わってもですね、教育現場できちっと引継ぎをして展開をしていく。そういうことをやっていただきたいと思いますので、それについて、考え方をお聞かせ願いたいと思います。

## 橋本教育長

お答えいたします。今、お質しの通り、国の学級基準というのは今のところでも40名でございます。福島県としては、小学校1・2年、中学校1年生は30人学級、31人以上いればそのクラスを分けるということになっております。それ以外の学級は33人程度学級、つまり33人を超せば2つに分けても良い、分けなくてもやっても良い、ということが福島県の実情でございます。それを三春の小中学校に当てはめてみますと、30人学級で、31人を超すからクラスが分けられるという学校は、今ほとんど、三春小、三春中、岩江小・中の一部の学年だけでございます。大抵は30人を割っている、33人以上という学級になるということはない、という学校規模でございます。それで、少人数学級の良さ、というのは先ほども少し述べましたが、子供たち一人一人の要求・関心に時間をもって担任があたることが出来る。そうしますと、中々問題が解けなくて、勉強に興味を示さなくなるような子供が少なくなる、という事で、色んな手を尽くして、「勉強が解らないから学校がいやだ」というような事を無くそうとしているわけでございます。具体的には、申し上げますと、町内の学校等で取り組まれている取り組み、これは、各学校独自に工夫を凝らしてやっております。その一、二を述べてみますと、宿題をきちんと与えて、それをきちんと子供に返してやる、というようなこと。それから、朝の読書活動。昼の短時間でのドリル学習。それから、学校図書館を活用した計画的な授業。それから中学校等では、放課後や、夏季、それから冬季休業中、小さい学校ではほとんどの子供、全部の子供が部活動に、学校に休みでも登校しています。そうすると、学校では、部活動だけではなくて、学校の図書館の中で、相談学習とか、質問学習というものを、全部の教師が当たってやっております。それらが中学生の学力の差を小さくすることに繋がっておると考えておりますので、今まで取り組んだこれらのことを、これからもさらに充実・発展させていくべきだと、そういう風に考えます。